

令和5年度第2回（第79回）CPDプログラム委員会議事録

日 時：令和5年9月20日（水）15:00 ～ 16:00

場 所：Zoom によるウェブ会議

出席者（順不同・敬称略）

高木真人委員長、湯本公庸委員、原田克之委員、富松重行委員、八坂保弘委員、
太田賢委員、柳川博之委員、前田信幸委員、橋本克巳委員、矢内悠介委員、
杉山敦様（清田修委員代理）、尾崎章幹事、
オブザーバ：石原直会長、広崎膨太郎元会長、事務局：竹内章晃様

配布資料

資料 2-0	CPD 協議会 CPD プログラム委員会名簿 2023.9.20
資料 2-1	令和5年度第1回（第78回）CPD プログラム委員会議事録（案）
資料 2-2-1	第46回(2023年度第2回)CPD 運営委員会議事録
資料 2-2-2	第47回(2023年度第3回)CPD 運営委員会議事録
資料 2-3	2023 年度第1回 CPD 協議会公開シンポジウム
資料 2-4	理事会資料_第5回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム
資料 2-5	CPD 活動及び登録に関するアンケート調査結果 20200806

参考資料

参考資料 1	一口メモ 20230807
参考資料 2	CPD ポータルサイトの調査状況（2018 年第 61 回 C P D プログラム委員会資料）

議事

0. 委員会名簿確認

- 資料 2-0 により、CPD プログラム委員会の委員名簿（2023.9.20 現在）を確認した。
（日本技術士会からの委員の交代、協議会会長交替にともなうオブザーバ交替）

1. 前回議事録の確認

- 資料 2-1 により、前回の議事録確認を行った。特段の修正・コメントは無く、本議事録は確認された。

2. CPD 協議会運営委員会（第46、47、48回）報告

- 資料 2-2-1、2-2-2 により、第46、47、48回 C P D 協議会運営委員会の議事内容が高木委員長から報告された。（第48回は口頭のみ。）

3. 2023 年度第 1 回 CPD 協議会公開シンポジウムについて

- 資料 2-3 により、日時、サブテーマ、プログラムについて、また、基調講演を頂く吉見俊哉先生について、高木委員長から説明があった。
 - “教員と学生が対面で交流しながら常識を疑い、新しい価値を生み出す力を育む”ことが大学教育であるとの吉見先生の考えは、一昨年基調講演を頂いた、東大／藤井総長が UTokyo Compass の目標の一つに掲げる“大学と社会をつなぐ双方向リカレント教育”の考えと通じるものがある。

4. 第 5 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムについて

- 資料 2-4 により、開催日時、プログラム構成について、高木委員長から説明があった。
 - 日本工学会理事の方々に登壇者の推薦をお願いしている。
 - 世界エンジニアリングデーの背景やその意義についても、日本工学会／事務研究会や会長懇談会の場を利用して周知していく。
 - WFEO が 4 年ごとに開催する世界工学会議（本年 10 月、チェコのプラハ開催）には、高木委員長が日本学術会議／連携会員の立場で参加する予定。

5. CPD 活動及び登録に関するアンケートのアップデートについて

- CPD ガイドラインの改訂について、高木委員長から委員に対して改めて謝辞が示された。
- CPD ガイドラインの初版を 2010 年に当時の CPD WG 委員会（現在の CPD プログラム委員会）で策定した際に、その次のステップとしてガイドライン活用と各学協会のプログラムの活用推進が議論された。今回 CPD ガイドラインの改訂を行ったので、基本的にはその活動方向性を踏襲したい。当時を振り返るため、CPD プログラムのポータルサイトについて確認してみたい。
- 旧 CPD ガイドライン策定後に立ち上げられた CPD プログラムのポータルサイトについて、参考資料 2 により尾崎幹事から説明があった。
 - CPD プログラムのポータルサイトは、CPD 協議会のホームページにボタンがあり、各学協会のプログラムの概要が表示されるものであった。各学協会のホームページを、自動で探索して情報を収集する方式であったが、学協会のページの改編などにより、表示されるプログラムが減少する傾向にあった。
 - 維持費用もかかり、また現状に合わなくなってしまったことから利用を中止し、各学協会の当該ページへのリンクを掲載するという現在の方式となっている。
- 技術士制度では CPD の登録を公的に行う事になったが、CPD を行う人がニーズに合ったプログラムに到達できる環境は考えていく必要があり、継続して議論して行きたい。技術士制度に関する国の議論の中では、国家資格である技術士だけでなく、広く技術者の教育の議論もしている。今回の CPD ガイドラインの改訂では、CPD の定義や技術者に求められる 13

の能力についても新規に記載している。これらは IEA（国際エンジニアリング連合）が定めたものであり、従来これらに最も注目してきたのが技術士制度である。技術士制度の検討の中では、学協会が提供する教育プログラムへの期待は大きい。

- 高木委員長から、各学協会で実施している CPD プログラムを有効活用するという視点に加え、CPD ガイドラインや技術士制度からの視点から、現状のプログラムの内容も含めどのようなになっているのか、今年度、改めてアンケート調査を実施し、現状把握していきたいとの提案があった。
- まずはその導入として、2020 年に実施した「CPD 活動及び登録に関するアンケート調査結果」について、空気調和・衛生工学会／杉山様、地盤工学会／原田委員、電気学会／八坂委員からその後の変更も含めそれぞれ説明があった。
 - 空気調和・衛生工学会の回答は現在でも大きな変化はない。法人会員は微減、個人会員は微増である。経営事項審査など国の CPD 活用があり、CPD 登録者数が 6000 名超に増加している。CPD の審査も毎月 700~800 件行っている。
 - 地盤工学会は、会員関係・記載内容に変化はない。技術士会の CPD 登録に倫理の項目ができたため、地盤工学会でも登録や証明書発行において、倫理に関するプログラムが区別できるようにしている。
 - 電気学会も殆ど変わっていない。学会内で CPD 認定技術者という資格を設けている。CPD 登録者数は昨年末で約 320 名と若干増加。証明書の発行数は減っている。CPD の趣旨は理解しているが、実績を登録して管理するモチベーションが少ないことが課題。技術士 CPD 制度による活用が期待されるところではあるが、電気学会のシステムを利用する方は少ない。
- これについて、以下のコメントがあった。
 - 各学協会でも CPD プログラムの内容がわかるページがあるが、その先を考えたいとの趣旨か。
→手法について結論があるわけではないが、技術者が学びたいプログラムに到達することを支援したい。各学協会がそのような工夫をされていることも含め情報を周知したい。
 - 学協会により周知のやり方に違いがあると思うが、それを紹介しあって、あとは技術者各々がホームページを訪問してプログラムを探すことが現実的ではないか。
→まずは、現状がどうなっているかを、プログラムの内容も含めアンケートで調べたいとの趣旨である。

5. その他

- 参考資料 1 により、新たに掲載された「CPD 一口メモ」の内容が紹介された。
- 次回については、別途日程調整を行う。(12 月頃、会議時間 1 時間を前提に調整する。)

以上